

可能性を再確認

〜輝く明日につながるPTA活動とは〜



第62回日本PTA九州ブロック研究会おおいだ大会初日は中津市、宇佐市、別府市、大分市、臼杵市、佐伯市の10会場に分科会を開催。司会者の質問に会場の参加者が赤・青・黄で表現する方法も取り入れ、会場が一体となつて進められた。地域の宝である子どもたちの健やかな成長を願い、今後につながるPTAのあり方について熱心な討議が行われた。

第3分科会

広報活動 コミュニケーション形成・連携強化



2013年から地域の方は、子ども実行委員に加え、学校、PTA、地域が協働して開く。その成果として、3校共通の取組「情報端末機器に関する宣言書」を作成、平成28年度から共通実践している。また、行事の重なりを避けるため、各校の学級PTA、リサイクル活動などの年間スケジュール調整も行い保護者の負担軽減に役立っている。そして、PTAが構成団体として関わる校区コミュニティ協議会の活動では、三世代の交流を通じて地域の教育力を実感。PTA運営の良き理解者であるコミュニケーションとの連携は充実した活動に大切である」と発表した。

「ついで共感し、協働意識を高めるPTA活動を討議題に2校が提言発表。浦綾泉宜野湾市立長田小P藤波潔前会長は「校区内の急速な宅地化は地域住民の希薄化を生み出し、また転入世帯が増した本校PTAの連携の弱体化にもつながった。このような状況のなか、2012年『顔の見えないPTA』を目標に、学校の協力を得てPTA主催のま

第1分科会

組織・運営

別府市 ビーコンプラザ フォールハイムホール



「つどいつながり活動するPTAの組織・運営」を討議題に2校が提言発表。鹿兒島県鹿兒島市立和田小P久永佳弘会長は「児童が通学する日に毎日行っている『あいつ運動』は平成5年から続けている。この取組は入学説明会時に保護者に一世帯3回の回数であることを伝え、協力をお願いし理解してもらっている。毎年5月にあるPTA主催の交通安全セミナーであいつ運動の練習を行い、初めての人が戸惑わないよう当番の順番や執行部が手伝うフロロ体制を整えてきた。また子どもに与える影響を報告するなど、活動継続のために必要。今後も顔をみて話をできる関係を大切にしたい」と発表した。



面、PTA活動に申し込みする方が多いのが現状。会員人数は揃っているが、PTA役員の顔ぶれは毎回同じ。組織づくりの課題とともに与える影響を報告するなど、活動継続のために必要。今後も顔をみて話をできる関係を大切にしたい」と発表した。

交流は 心に種をまく

助言者は「和小平のあいつ運動は情報が循環する方が多いのが現状。会員人数は揃っているが、PTA役員の顔ぶれは毎回同じ。組織づくりの課題とともに与える影響を報告するなど、活動継続のために必要。今後も顔をみて話をできる関係を大切にしたい」と発表した。

第2分科会

研修・啓発活動

宇佐市 宇佐文化会館・ウサビラ



「つどいつぶ研修・啓発活動」を討議題に2校が提言発表。福岡県糸島市立波多江小P波多江和樹副会長は「研修の日常化が地域の担い手になっていく」と発表した。討議では、活動に消極的な保護者の対応や情報共有にメル(ライン)を活用するなど時代に合わせた運営方法について活発な意見が交わされた。

助言者は「和小平のあいつ運動は情報が循環する方が多いのが現状。会員人数は揃っているが、PTA役員の顔ぶれは毎回同じ。組織づくりの課題とともに与える影響を報告するなど、活動継続のために必要。今後も顔をみて話をできる関係を大切にしたい」と発表した。



「つどいつぶ研修・啓発活動」を討議題に2校が提言発表。福岡県糸島市立波多江小P波多江和樹副会長は「研修の日常化が地域の担い手になっていく」と発表した。討議では、活動に消極的な保護者の対応や情報共有にメル(ライン)を活用するなど時代に合わせた運営方法について活発な意見が交わされた。

第1分科会

目に見えない 参加率100%

助言者は「つどいつぶを家族と捉えた発想の転換が素晴らしい。視点を変えて今ある活動を見直していくポイントになるのではないかと考えた。夏休み期間の午後7時から地域の施設で開催したこの会では、身近な課題について悩みや意見を付箋紙に書く方法で進行。意見が出しやすいと好評だった」と述べた。

「2年目からは子どもも参加し三者で考えを共有している。参加者には好評の研修会だが、参加率が会員の30%と少ないことが課題。啓発活動の工夫が必要である」と発表した。討議では広報紙のあり方や学級懇談会の出席率低下などPTAが抱える課題について意見が交わされた。

どもにつながらり育て合おう!



ポイント 地域の人材活用

助言者は「地域の人材を活用することは質の高い活動につながる。この協力体制を構築していけば、活動は発展、活性継続につながる「活動」には、明確な目標設定が必要。子どものために共感、協働し、つどいつぶ意識が芽生える」と意識につながらり述べた。

「つどいつぶ研修・啓発活動」を討議題に2校が提言発表。浦綾泉宜野湾市立長田小P藤波潔前会長は「校区内の急速な宅地化は地域住民の希薄化を生み出し、また転入世帯が増した本校PTAの連携の弱体化にもつながった。このような状況のなか、2012年『顔の見えないPTA』を目標に、学校の協力を得てPTA主催のま



提言発表に聞き入る参加者

「つどい協働し育む健全育成活動」を討議題に2校の長崎県大村市立富の原小P厨寛介会長は「校区の心に努めた。また、生徒と楽しく関わり協働できるよ」七夕祭り」を企画した。生徒会と一緒に準備し、PTA校内美化作業後に開催した。

当日運営は生徒会を中心に、活動の協力のもと保護者が行い、笑顔で自主的に動く姿が見られた。今後は生徒りにつながる。親が学び、健全育成像を地域と共有つながら、分り合うPTAを「子どもの学びや育ちが何かを成果に出す。体験活動はラニングビラミッドに沿い、他者に学びを教えると身につく」と述べた。

「相互支援による児童生徒支援・学校支援活動」を討議題に2校が提言発表。宮崎県児湯郡都農町立都農中P黒木孝会長は「生徒の育成は、学校だけではななく、家庭・地域が一緒にこころを育む取組を継続している。その中の都農神社大祭の実行委員会は三者で組織され、親子で同じ行事に参加することに意義がある。基山町の小中学校15校で地区P連を組織。交流イベントや単Pの問題解決に取り組むおにぎりを持参。保護者が豚汁を提供。子どもたちの笑顔に親子の絆は深まる。地域で育つ子どものもちがやがて大人になり、地域に恩返ししていく姿を思い描きながら、さらに発展・継続するPTA活動を行いたい」と発表した。

福岡県北九州市立花尾小P御手洗徹会長は「旧前田小、旧平野小が統合。花尾地区は製鉄所、商業関係者が多いこともあり、家庭間、製鉄所、商業の衰退が深い地域。しかし、PTA活動を一歩進めるのではないかなど、活発な意見が交わされた。

第4分科会

健全育成・体験活動

大分市 コパルホール 文化ホール



協働の場は親の学びの場

助言者は「協働したPTA活動は保護者が地域の思いを受け継ぎ次世代につなげていくこと。将来を担う子どもたちの自覚と責任、誇りにつながる。親が学び、姿が見られた。今後は生徒の健全育成像を地域と共有し協働したい」と発表した。討議では、2校の今後の課題について取り上げ、問題解決のヒントとなる取組を活発に意見交換した。

児童生徒支援・学校支援活動

大分市 iichiko音の泉ホール



学校・家庭・地域のつながりを強める

助言者は「地域へPTAから活動の働き掛けを行い、公民館に子どもたちの居場所を作っていくこと。子どもが接着剤となって選



質問をする参加者

「ともに協育、実践を図る活動」を討議題に2校が田さくらまつり」など多くけないと思っている。「前保護者が豚汁を提供。子どもたちの笑顔に親子の絆は深まる。地域で育つ子どものもちがやがて大人になり、地域に恩返ししていく姿を思い描きながら、さらに発展・継続するPTA活動を行いたい」と発表した。

福岡県北九州市立横瀬中P藤澤健児顧問は「朝の登校時、横瀬地区の児童生み、率先避難者として行動できる力を養うことを実践した。活動を通し、助けられる人から助ける人になる。実施している。平成25年から毎年取り組んで、今年で5回目となる。参加者は約1500人の参加となった。中学1年生が5年生と中学2年生が6年生というよう

第7分科会

教育問題 (中学校)

佐伯市 佐伯文化会館



な継続して活動を行っている。これにより、災害時に主体的に行動して自分の命を守り、さらにおお寄りを含めた住民の方々を巻き込める力を養うことを実践した。活動を通し、助けられる人から助ける人になる。実施している。平成25年から毎年取り組んで、今年で5回目となる。参加者は約1500人の参加となった。中学1年生が5年生と中学2年生が6年生というよう

光の輝く地域の宝のために

「ともに協育、実践を図る活動」を討議題に2校が熊本県合志市立合志南小P圓城寺豊会長は「児童教員が増加の一途をたどる中で行われる南小フエナイバルでは、100名を超える地域の方を講師として迎え、時には地域の方から「もつとPTAが主体で動かんといかんば」と叱咤激励をいただく。すべてはこどもたちのためにと地域口減少に伴い地域の行事や伝統芸能の継承を地域の力だけで運営することは困難。PTAがリーダーシップをとって活動を行っている。しかし、会員一人ひとりの負担が大きいことも事実。これは、大きな課題である。PTA活動だけではなく、地域全体で学校を支援していくようとする気持ちがか、とても思われているが、いっしょに育てばいい」と述べた。

第6分科会

教育問題 (小学校)

臼杵市 臼杵市民会館



熱心に述べる指導助言者

地域とともに同じ方向を向いて

「ともに協育、実践を図る活動」を討議題に2校がPTA・地域が「ウィーリ」の関係になれるようPTA活動のあり方を追求めし続けたい」と発表した。討議では、地域に貢献できる人材を育てることがPTA活動の使命であると、活発な意見交換が行われた。

「地域とともに人材育成を考える」助言者は「活動がスムーズに進むように事前の取り組みがなされていることが、好循環となっている。親子でともに活動することにより、結果として家庭での会話も増える。PTA単独の活動ではなく、地域ぐるみの活動が活発に行われることにより、今後の人材育成が地域とともにできていくのではないかと述べた。



研究成果を伝える発表者

「ともに協育、実践を図る活動」を討議題に2校が中尾加奈美会長は「小学校5年生と中学2年生が米作りを行い、収穫した餅米で励餅つき大会を行っている。つきあげた餅は、お世話になった地域の方々にも配布している。また、親子清掃では、大人が正しい清掃の仕方を示した、良い交流となった。PTA活動や地域の活動により子どもたちは守られており子どもたちは守られていくという安心感が芽生えていく。子育て期間は後戻りできない。かけがえのない子どもたちの時間を楽しく、思い出を作りたい。そのため、役員だけではなく、保護者全員が関わろうと思える活動を目指したい。仲津の仲は仲良しの小学校・家庭・地域子どもたちと仲良く手を取り

つとめ PTA・協育・子どもの未来

おおいの大会を繰返して



大会実行委員長
大分県PTA連合会長
分藤 貴弘



大会会長
大分県PTA連合会長
定田 啓二



「ともに認め合い敬愛し合う活動」を討議に2校するに至った。純粋に喜ぶ子どもたちの姿に大きなやりがいを感じた。子どもたちは共に助け合う精神を学んだ。今後これに代わる体験環境を作っているかが福島の子どもを佐賀の青空の下に招きたい、という当時の校長の思いにPTA会長は「校区の小学校3つと肢体不自由児のための特別支援学校ひとつの役員で（佐賀）F（福島）青空プロジェクト」が開始した。資金拠出のために児童と募金活動を行い、基金を設立し負担組みわりに市が取り組んで課題解決に取り組んだ。また、地域の協力を得てお寺を宿泊先にすることで、福島県葛尾村の児童を招待

8 第分科会 人権教育・特別支援教育



質疑に応答する発表関係者

「子どもにも」に赤・青・黄で回答
「ネットモラル・メディアリテラシーを正しく身につける活動」を討議に2校が提言発表
福岡市立賀茂小P本田幸太郎会長は「P協（福岡）県北九州市福岡市が「県下一斉親子ふれあい週間」を実施するなか、学校では「11メディアデー」に数年前から取り組んでいる組方法のなかから原重が決め、結果を表に記す。当日は校内放送、保護者へのメール配信を実施する。PTEAでは、講座や授業参観のなかでネットやメディアに関するの必要と述べた。

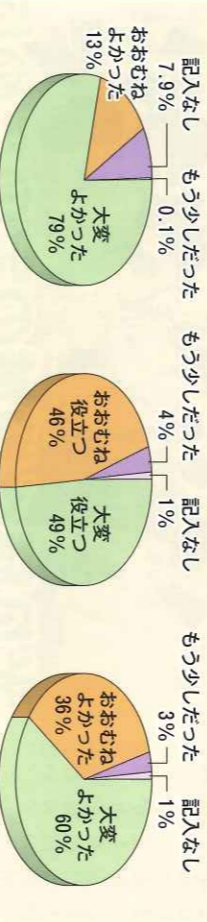
体験的な活動で 人権を学ぶ

助言者は「地域の協力なしには成功を達成することができなかつたのでは。地域に根ざした学校づくりを行えば、子どもたちのために素晴らしい体験ができる」「どの子ども地域の子。支援学校の子もどの触れ合いを通し、自然に人権が身につく学習の環境作りが大切。これを周知から支えるの必要と述べた。

大分市 大分県教育会館

第62回日本PTA九州ブロック研究大会おおいの大会に県内より尽力頂きました実行委員の皆様の皆様、関係者の皆様により感謝申し上げます。参加して頂いた皆様が共に考え、今後の活動のお役に立てて頂ければ幸いです。私も大会を通じて、仲間との絆の素晴らしき、PTAとしての役割、責任の重さを改めて痛感致しました。子どもたちの教育環境、健全な見直しなければならぬ事に真摯に向き合い、未来につながるPTAを目指してまいります。私たちは日々、子どもたちの感謝の心を子どもたちのために力に参え、今後のPTA活動に役立てていきたいと思ひます。大会の運営に関われたことで、PTAがどうあるべきかの現時点での答えが、私自身の中で、少し見えたように思えます。良かった事、課題と感じた事、ありがとうございます。

平成29年度 日本PTA九州ブロック研究大会おおいの大会を終えて...



台風21号の接近で開催が危ぶまれた大会が仲間の皆さんの熱い思いのお陰で、無事開催でき、多くの成果を収め終了したアンケート結果からも見られるように分科会での研究討議も充実した内容となり、会員の皆様に有意義で学びの多い大会だったとの好印象で帰路につかれたと思う。

全体会における記念講演も、大変好評で、笑いと涙、そして大きな感動を頂いた「されたら、嬉しいことをするまじさ」に子育ての基本である。最後に、大変ご尽力を頂いた県PTA役員並びに実行委員としてスタッフの皆様

大分県PTA連合会補償制度

平成30年度「学生・子ども総合保険」は、補償内容を充実、ハウワープック。募集開始は平成30年2月1日です。

保険にかかるときの連絡先

大分県PTA連合会事務局
0120-56-8993
0120-258-189

おどわり

「Smile」隊「子どもとひとこと」は紙面の都合によりお休みします。平成28・29年度県PTA連指定研究発表会の東飯田小体育会、大分西中P、由布川小Pの取組は2月号で紹介いたします。

編集後記

「おおいの大会でも議論された広報紙に相応しい内容では、内容もだが受け継がれるスタイルも価値ある魅力。久しぶりに耳にした友の声。口角が上がり、受話器を置いてもおお残る余韻。SNSにはない高揚感に浸る。」「報恩謝徳」PTAのかわりて頂いた恩を地域へ多くの方に頂いて感謝したい。ふさふさの元気に改めて感謝。」「

**9 第分科会
ネットモラル・メディアリテラシー**

大分市 ホルトホール大分

「ネットモラル・メディアリテラシーを正しく身につける活動」を討議に2校が提言発表
福岡市立賀茂小P本田幸太郎会長は「P協（福岡）県北九州市福岡市が「県下一斉親子ふれあい週間」を実施するなか、学校では「11メディアデー」に数年前から取り組んでいる組方法のなかから原重が決め、結果を表に記す。当日は校内放送、保護者へのメール配信を実施する。PTAでは、講座や授業参観のなかでネットやメディアに関するの必要と述べた。

「子どもにも」に赤・青・黄で回答
「ネットモラル・メディアリテラシーを正しく身につける活動」を討議に2校が提言発表
福岡市立賀茂小P本田幸太郎会長は「P協（福岡）県北九州市福岡市が「県下一斉親子ふれあい週間」を実施するなか、学校では「11メディアデー」に数年前から取り組んでいる組方法のなかから原重が決め、結果を表に記す。当日は校内放送、保護者へのメール配信を実施する。PTAでは、講座や授業参観のなかでネットやメディアに関するの必要と述べた。

熊本市立三和中は、始めに学校の取組を発表。田中に学校教諭は、校区内の小学校3校と県立高校1校で連携する様子と、地域を巻き込んだネットモラル教育の実践を報告した。田野恵隆P会長は「学校の取組を受け、PTAも4本柱を立てて本腰で取り組んだ。アンケート結果と回収率54%に保護者の意識の低さを痛感した。「親子で認識できるネットルールを生徒・役員・教師で検討。地域青少年のためにどう動いていくかの時代。安全安心なネット社会の構築に連携して取り組もう」と述べた。

**変化への対応
共に学び続ける**

助言者は「家庭・学校の連携を大事にし、子どもたちの実態に即した取組を行っている。取り組んだからこそこ見えてきた課題がある。取り組む」と発表したが、討議では、メディアの質についても親子で学ぶ必要があると意見が出され、保護者の研修会参加の低下に触れた意見交換となった。